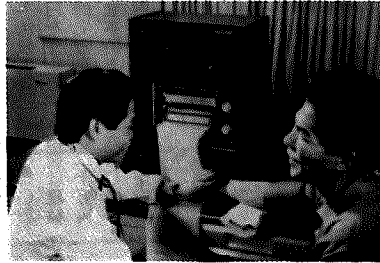


特別会計

国民健康保険特別会計の歳入は税に求める率が三五%をしめ、二億三六〇〇万円に対し、国からの補助金が三億八〇〇〇万円と、五七%にも達し、一般会計同様苦しい予算となっています。

歳出面では、保険給付費が総額の九三%をしめ、大半が療養給付高額療養給付助産費、育児手当葬祭費の支給などとなっています。

さらに本年度は、疾病予防対策として、新たに人間ドック利用者に対し、検診補助をするため、三二〇万



特別会計

**新規に「人間ドック」補助
三二〇万円を計上**

国民健康保険

円を計上しました。

しかし、国保会計は高齢化社会への移行により、老人医療費の増加は確実で、財政状態は危機にさらされることは明らかです。そこで町としては、国や県へ制度の改善要求をするよう強く働きかけ、健全財政の維持をはかっていきます。

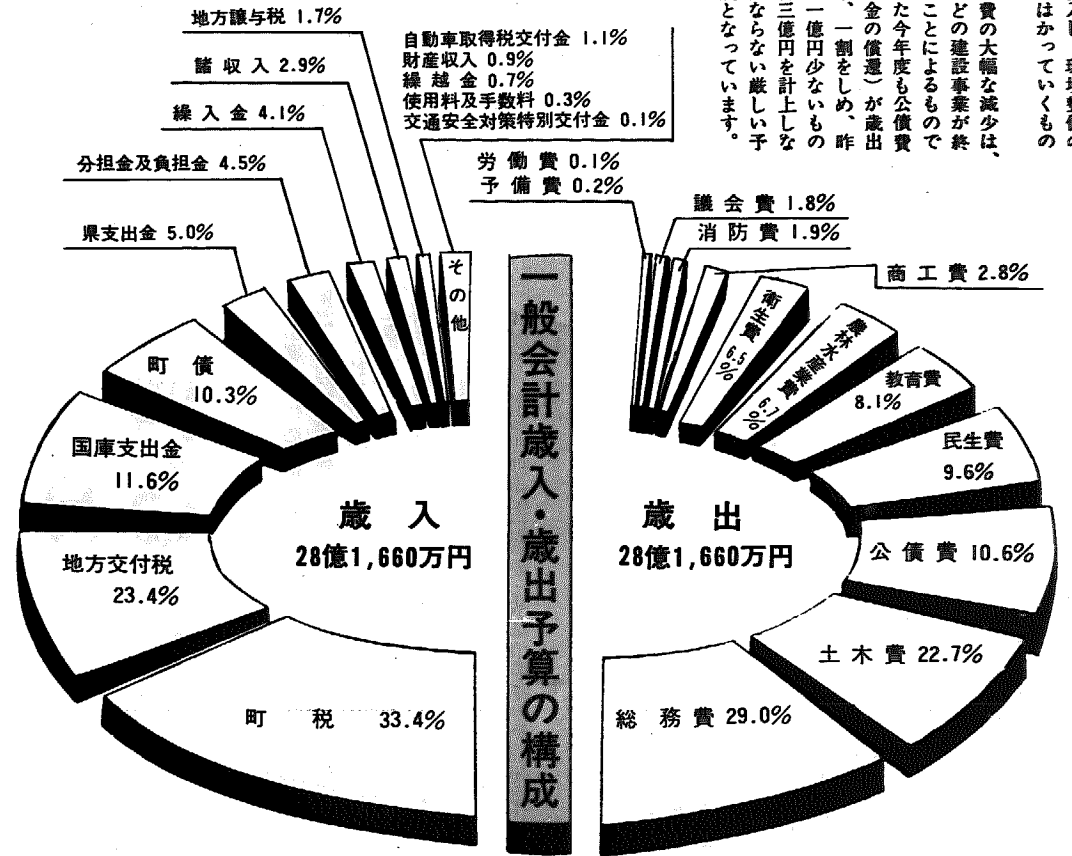
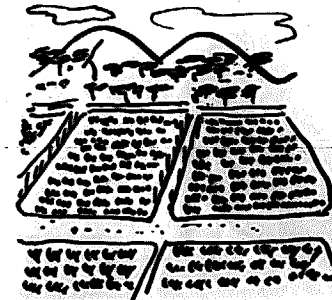
農業共済事業

**災害の未然防止
が最も重要**

農業共済事業特別会計は、水稲、麦を含め対象農家は七九四戸で総面積は一一三七ヘクタールにおよび、掛金は昨年同様一〇アルル当たり一五〇円とし、運営しています。

こと共済事業は、稲作や麦の災害未然防止が一番大切なことで、適当な時期に防除を行い、普及所や関係機関と連携を密にし、万全な対策を講じ、指導にあたっています。

このような方針で編成した予算は四八四四万円、前年対比では

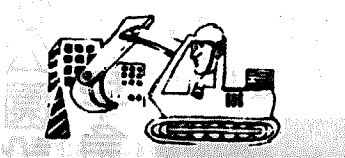


円を投入し、環境整備の充実をはかっていくものです。

教育費の大幅な減少は、学校などの建設事業が終了したことによるもので、また今年度も公債費（借入金の償還）が歳出予算中、一割をしめ、昨年より一億円少ないものの、約三億円を計上しなければならぬ厳しい予算編成となっています。

土木費

- 道路や橋の新設改良舗装などに 33,700万円
- 下水道事業などに 25,600万円



災害復旧費

5万円

消防費

- ポンプ置場の新設、火と見やぐらの移設などに 1,250万円
- 小型ポンプ積載車購入などに 1,200万円



公債費

借入金の償還に 29,700万円

教育費

- 大野小学校用地買収などに 6,800万円
- 各小学校補修工事に 650万円
- 中学校維持管理に 1,800万円
- 遺跡発掘調査事業に 660万円

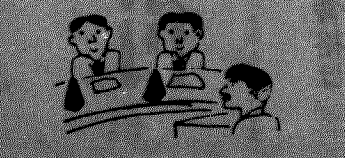


予備費

500万円

議会費

- 議会の運営などに 49,962千円



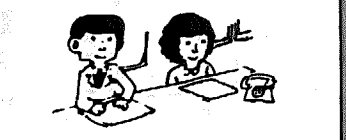
衛生費

- 予防費などに 965万円
- 母子衛生などに 1,600万円
- ゴミ処理などに 14,500万円



総務費

- 職員や特別職の給与と報酬などに 39,000万円
- 広報紙の発行などに 360万円
- 交通安全対策費などに 520万円



農林水産業費

- 農業構造改善事業に 5,100万円
- 水田利用再編対策に 1,400万円
- 農村総合整備事業に 6,000万円



民生費

- 老人福祉などに 3,000万円 (福祉バスの購入)
- 児童福祉などに 1,800万円



商工費

商工業の振興に 77,946千円



事業の内容

おもな